

【小鮎地区】令和4年度自治会長と市長とのまちづくりフリートーク実施結果【最終報告】

日 時: 令和4年7月21日(木) 午後7時25分～午後8時45分
 会 場: 小鮎地区市民センター
 参加者: 地区の自治会長(29名)、公民館地区館長、
 市長、副市長、教育長、市長室長、協働安全部長、まちづくり計画部長、道路部長、地区市民センター所長

テーマ① 『交通死亡事故ゼロ』について

小鮎地区においては、令和3年11月に宮の里で交通死亡事故が発生しており、主要な県道の渋滞を避けるため抜け道とされる市道も多く、交通事故防止のための取組に対して地域住民の関心は高くなっている。現在、飯山小学校、小鮎小学校、小鮎中学校に合計で約1,000名の児童生徒が通学しているが、小鮎地区は地域が広いことから、通学路における児童・生徒の安心・安全のため、地域住民が見守り活動や草刈り等の環境整備に力を注いでいる。交通安全について、地域の取組と市の政策が連携し、より安全な小鮎地区となるよう、意見交換をしたい。

自治会長からの意見

市長等からの回答

意見1 歩道にある電柱の移設と子どもや高齢者に対する交通事故防止の啓発について

【白山自治会長】

■登校時に老人会や民生委員児童委員などが登校する児童の様子を見守る中で、気になることとして、白山交差点付近のファミリーレストラン前の歩道は幅が狭いうえ電柱もあり、一度車道に降りないと歩行者のすれ違いもできず危険を感じている。電柱の移設は簡単なことではないと認識しているが、改善の余地はないだろうか。

また、白山交差点より北側は、歩道は広がるが、事業所等の出入りの車が歩道を横切るため、歩行者との接触の危険性が高くなっていると思う。

歩行者の交通安全意識を高めることで防げる事故もあると思うので、歩行者となる子どもたちや高齢者に対する事故防止の啓発活動をもっと行ってもらいたい。

【市長】

■歩道にある電柱の移設は、私有地を借りて移動する方法や地下に埋設するといった方法が考えられるが、電柱の移設が難しい中では、車道の幅を狭めて歩道を広くするなどの方法が考えられる。歩道を安全に通りやすくなるように、街路灯の移設などできることをやっていかなければと強く思っている。

■昨年、交通死亡事故で亡くなってしまった方が6名いられ、宮の里でも交通死亡事故が発生してしまった。今年度の施策の柱に交通死亡事故ゼロを掲げ、ハード面、ソフト面から対策に取り組んでいる。

交通事故防止の啓発活動については、小学校では、厚木警察署の協力により、学年に応じた交通安全指導を行い、啓発品として反射材キーホルダーなどを配布している。

また、高齢者に対しては、今年度から市内15地区で高齢者を対象とした交通安全教室を実施していく。

なお、今年度からは新たに子どもの目線でどういったところが危険になっているか、ウェアラブルカメラを使って通学路の点検を行っており、危険度の高いところから積極的に対策を進めていく強い姿勢をもっている。自治会長の皆さんにおいても、危険な箇所等について情報があると思うので、市にお伝えいただき、一つ一つ改善し、交通の安全性が高まるようにつなげていきたい。

〈現況・今後の対応等〉

■電柱の移設については、物理的な移動が難しいが、歩道を安全に通れるように街路灯を移設できないか検討していく。(道路維持課)

事故防止の啓発については、全小学校で交通安全教室を行っており、高齢者については15地区公民館で今年度中に実施する。(交通安全課)

〈中間報告以降の状況等〉

■電柱の移設については移動が難しかったが、街路灯については、移設に向けて引き続き検討していく。

高齢者に対する交通事故防止の啓発については、1月末までに全地区の高齢者交通安全教室を実施した。(小鮎地区は11月に小鮎公民館で実施済。)

意見2 注意喚起の看板と歩道の段差の解消等について

【宮の里中央自治会長】
■宮の里入口交差点にコンビニがあるが、小学校の通学路となっている。特に、朝の登校時にはコンビニに出入りする車が多く、子ども達は一生懸命歩いていて車が来ていることに気がつかず歩いている場合が見受けられる。既に注意看板を設置していただいているが、周辺に住んでいる人であっても認知度が低いので、設置する場所をはじめ、複数箇所に注意喚起の看板等を設置してはどうか。
また、電動車いすの利用者が増えてきている。付近には介護施設もあり、車椅子を利用した散歩や木陰で休む場面もあり、段差等でバランスを崩すと事故につながる恐れがある。市では歩道の高低差をなくすことや、車道から歩道への段差や傾斜の軽減等を考慮して進めているのだろうか。事業計画に盛り込んでいただきたい。

【旗月見台自治会長】
■飯山のゴルフ練習場の跡地に物流センターが建設されており、斎場入口や白山交差点で大型車両が多くなったと感じている。通過する車両の種類や通行量が変わっているが、駅から小鮎公民館に向かう際に白山交差点を右折するレーンが短いなど、現状の道路と合っていないようになってきていると思う。市としてもこういった状況は認識していると思うが、今後こういった対応を考えているか。

【古松台自治会長】
■歩道の植栽の高さが高いものもあり、運転の際に見通しが悪くヒヤッとした経験がある。市道の植栽について、美観的なものもあるが、子どもの安全性を考えると、ガードレールに変更することや、植栽の高さについて基準等があれば、もっと低いものに見直しをしていただきたい。

【協働安全部長】
■宮の里入口交差点のコンビニ入口には2箇所看板を設置しているが、民有地や県道部分への設置も含めて、よりドライバーが認識できる場所に設置するよう地権者等と調整していく。

【道路部長】
■交通死亡事故のあった交差点については、路面の舗装、注意看板や横断幕の設置などによる再発防止策を講じている。
今後も、バリアフリーの視点からより安心安全な道路となるよう、関係機関と連携し、改善に向けて協議していく。
■他の地区でも、大型の倉庫等が建設されたことにより、以前と比べ道路の利用状況が変わってきている。大型車両の通行が多くなると交通混雑の発生や大型車両が曲がる際の巻き込み事故の発生も懸念される。引き続き、安心安全な道路として機能していくように取り組んでいきたい。

【上前副市長】
■通過する車両が変わってきたことにより、歩行者等の安全確保の方法や、植栽が高いことにより見通しが悪くなっている状況については、現在の課題であると思う。場所によって様々な対策があると思うので、解決に向けて、皆さんの声を伺い安心安全な道路となるよう取り組んでいきたい。

【佐後教育長】
■今年度は交通死亡事故ゼロを目標に掲げ、路面のカラー舗装などの対策に取り組んでいる。また、今年度は新たにウェアラブルカメラを導入し、ランドセルに付けて植栽や塀が高く見通しの悪い箇所など子ども目線で危険箇所がないか、通学路の安全点検を実施し改善につなげていく。

《現況・今後の対応等》
■宮の里入口交差点の注意喚起の看板については、地権者等と調整し、コンビニ入口の手前のドライバーが認識できる場所に注意看板を設置した。(交通安全課)
■歩道の段差の解消については、バリアフリーの視点からより安心安全な道路となるよう、関係機関と連携し、改善に向けて協議していく。(道路維持課)
■周辺環境の変化に合わせて、現在道路を利用している人にとって、安心安全な道路となるよう取り組んでいく。ウェアラブルカメラを利用した通学路の安全点検について、小鮎小学校は 令和4年9月2日に実施した。(交通安全課、道路維持課、道路整備課、学務課)

《中間報告以降の状況等》
■歩道の段差の解消については、引き続き、関係機関と連携し取り組んでいく。ウェアラブルカメラを利用した通学路の安全点検の結果については、薄くなっている横断歩道を通過する車両の数など状況が確認できたため、横断歩道の補修等、警察本部と調整をしている。

テーマ② 『生活利便性の充実』について

<p>第10次厚木市総合計画の地区別プランでは、地域住民が感じている課題として、次の3点が挙げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物等の日常生活や健康に対する高齢者の不安の解消 ・路線バスサービスの確保や充実 ・路線バスサービスを補完する移動サービスの導入 <p>小鮎地区は本厚木駅周辺の市街地から車やバスで20分から40分かかかる場所にあるが、令和3年度から神奈中バスが宮の里地区他で減便されている。これから少子高齢化が加速する中、地域のニーズをどのように捉え、今後の施策に取り組んでいくのか、市の考えをお聞かせいただき、意見交換をしたい。</p>	
自治会長からの意見	市長等からの回答

意見1 バスの減便対策と移動手段について

<p>【宮の里東自治会長】 ■宮の里地区もまちができて今年で39年が経過した。少子高齢化現象はどの地域にも見られるが、特に、宮の里地区は少子高齢化が加速しており、高齢化率は約42%で、75歳以上は約30%となっている。本厚木駅から宮の里路線のバスについては令和3年度から減便された。 今後、運転免許証返納等で車の運転をしなくなった時は、バスが移動手段となるので、これ以上のバスの減便が行われないうようにしていただきたい。</p>	<p>【市長】 ■あつぎのまちは本厚木駅を中心としてバスの路線が整備されている。利用状況が維持されれば減便にはならないが、路線バスを減便しないでほしいということについては、地域の声としてバス事業者にお伝えさせていただく。利用が少なくなると減便につながることもあるので、バスを御利用していただきたい。 今後のまちづくりの方向性については、コンパクトなまちであって、各地域をつなぐ交通がなければならない。地域の状況によりどのような移動手段が良いのか地域の皆さんと協議をしながら進めていく。</p> <p>【まちづくり計画部長】 ■移動や買い物、通院について市民の皆さんの声はあるが、その中でも依知地区と宮の里地区のニーズが大きい。 移動に不便な地域についての考え方は、まずは、駅へのアクセスとなるバス路線を守っていくものとなる。 バス停までの移動に距離がある12か所の交通不便地域については、ジャンボタクシーを使い、スーパーや診療所までバス停を設けながら定時定路線で運行している荻野地区や、毛利台地区では、タクシーの乗合で通院や買い物をしていただくなど順次、コミュニティ交通の実証実験を行っている。 小鮎地区については、今年度のアメニティヒル本厚木でアンケート調査を実施し、このエリアでどういうものが合っているか検討していく。また、宮の里東自治会には、ヒアリングや意見交換会を実施し、地域の状況等について伺っていく。 地域に合ったコミュニティ交通を導入することによって、買い物やバス路線へのアクセスをしっかりと確保していきたい。</p> <p>《現況・今後の対応等》 ■地域の状況に合った移動手段については、地域の皆さんと協議をしながら進めていく。(都市計画課)</p> <p>《中間報告以降の状況等》 ■地域の皆さんと引き続き協議をしながら進めていく。</p>
---	--

意見2 スーパー等の誘致について

<p>【宮の里中央自治会長、宮の里東自治会長】 ■コンパクトプラスネットワーク推進事業により、とうめい宮の里クリニックの診療が開始されることについて、宮の里地区4自治会を代表してお礼申し上げる。身近なところにクリニックがあり、より安心して生活ができる。</p> <p>【旗谷自治会長】 ■令和2年度に書面で行ったフリートークで宮の里地区の無医地区の解消について要望していたが、今年11月に「とうめい宮の里クリニック」が開設する運びとなったと聞き、大変ありがたく思っている。地域の声を聴いて政策に反映してもらっていると実感している。 しかしながら、小鮎地区としては、上・下古沢地区や上飯山地区など、神奈中路線バスの本数も少なく、自家用車がなければスーパーや病院に行くにも不便を感じる箇所も多くある。 路線バスサービスを補完する移動サービスはどのようなサービスが検討できるか。また、生活に必要なスーパー等が徒歩や自転車で行ける範囲にあると生活しやすいと感じ若い世代も定住しやすくなると思うが、こうした地区にスーパー等の施設を増やしていくような計画はあるか。</p>	<p>【市長】 ■複数の自治会長からとうめい宮の里クリニックの開院について、お礼の言葉をいただきありがたい。スーパーや診療所の誘致を進めているが、小鮎地区でクリニックが開院できたのは、皆さんの声が届いたからこそ実現できた。</p> <p>【まちづくり計画部長】 ■スーパーや診療所が不足している地域においては、施設そのものを誘導していくということで、徒歩圏内で生活利便性をもって暮らしていただけるまちづくりを進めている。 上・下古沢地区や上飯山地区は市街化調整区域であり、法令上スーパーなどの立地ができないが、沿道サービスとしてコンビニなどの出店は可能となっている。 引き続き、生活利便施設の誘導を進め、快適なまちづくりを進めていきたい。 皆さん御承知のことと思うが、相模原大磯線沿いにスーパーの出店が決まった。来春頃の開店になると思うが、地域の皆さんには御利用いただきたい。</p> <p>《現況・今後の対応等》 ■スーパー等の誘致については、生活利便施設が不足している地域への立地誘導を進め、快適なまちづくりを進めていく。(都市計画課)</p> <p>《中間報告以降の状況等》 ■引き続き、生活しやすい快適なまちづくりを進めていく。</p>
--	---